中学歴史プリント（過去問類似）
江戸時代

名前 ＿＿＿＿＿＿＿＿

得点 ／8

問1 1833年から始まった天保のききんが深刻化する中、1837年に大坂で起きた出来事について、その背景と内容を説明したものとして最も適切なものはどれか。 （2024年　岐阜公立入試　類似）

1. 大坂町奉行所の元役人であった大塩平八郎が、ききんに苦しむ人々を救おうとせず江戸へ米を送り続ける奉行所の対応に憤り、弟子らとともに蜂起した。

2. 軍学者の由比正雪が、幕府の過酷な武家諸法度による改易で増えた浪人たちを組織し、幕府の転覆を狙って江戸で反乱を計画した。

3. 天保の改革によって株仲間が解散させられ、物価が急騰したことに抗議した大坂の商人が、奉行所に対して一斉に打ちこわしを行った。

4. 異国船打払令による外国船への攻撃に反対した渡辺崋山や高野長英らが、幕府の鎖国政策を批判して大坂で武力による政治改革を訴えた。

問2 江戸時代後期、実測に基づいた正確な日本地図が求められる中で、約17年をかけて日本全国を歩いて測量し、「大日本沿海輿地全図」を完成させた人物は誰ですか。 （2021年　佐賀公立入試　類似）

1. 伊能忠敬　**2.** 本居宣長　**3.** 葛飾北斎　**4.** 近松門左衛門

問3 江戸時代初期に活躍し、それまで本の挿絵であった浮世絵を、一枚の独立した絵画（肉筆画や版画）として完成させ「浮世絵の祖」と呼ばれた人物は誰ですか。赤い着物を着た女性が肩越しに後ろを振り向く姿を描いた「見返り美人図」の作者としても知られています。 （2018年　香川公立入試　類似）

1. 菱川師宣　**2.** 俵屋宗達　**3.** 喜多川歌麿　**4.** 葛飾北斎

問4 豊臣秀吉が全国的な規模で実施した太閤検地によって確立された「石高制」について、その仕組みと意義を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 （2025年　福岡県公立入試　類似）

1. 田畑の面積や土地の質を調査し、予想される米の収穫量を「石高」として表すことで、年貢の徴収や武士の軍役の基準を明確にした。

2. 土地の面積にかかわらず、耕作している人数に応じて一定の額の銀を納めさせることで、農村における貨幣経済の普及を促進した。

3. 平安時代から続く荘園領主の権利を保護するため、土地の収穫量を調査して貴族や寺院に直接利益が渡る仕組みを強化した。

4. 輸出用の生糸を確保するために、すべての農地で米の代わりに桑を栽培させ、その生産量を「石高」という単位で記録した。

問5 江戸時代の貿易において、愛媛県の別子銅山などで産出された「銅」が重要な役割を果たした背景として、最も適切な説明はどれですか。 （2016年　大阪公立入試　類似）

1. 金や銀の海外流出を抑制するため、その代わりの決済手段（輸出の柱）として銅が長崎を通じて輸出された。

2. 日本国内での貨幣需要が低下したため、余った銅をすべて長崎の出島からオランダへ輸出した。

3. 江戸幕府が鎖国を強化するために、国内の主要な鉱山をすべて閉鎖し、銅の輸出を全面的に禁止した。

4. 生糸などの輸入を制限するために、銅を武器の原料として清やオランダに大量に売り込んだ。

問6 元禄時代に実施された貨幣改鋳とその影響について、当時の統計や社会状況を説明した文として正しいものはどれですか。

（2019年　熊本県公立入試　類似）

1. 金の含有量を減らした新貨の発行により、幕府は総計で約500万両もの差額利益を得て財政に充てた。

2. 貨幣の質を向上させたことで、武士や農民の借金が帳消しになり、幕府の財政は健全化した。

3. この改鋳によって通貨の流通量が極端に不足したため、幕府は深刻なデフレ（物価の下落）に悩まされた。

4. 小判の重さと金の含有量をともに増やす政策をとったため、幕府の貯蓄していた金が底をついた。

問7 18世紀前半、徳川吉宗が進めた享保の改革では、新田開発の推進や年貢徴収法の変更によって幕府の年貢収納高が増加しました。しかし、市場に流通する米の量が増えたことで「供給過剰」となり、米の価格が著しく下落する現象が起こりました。このとき、幕府が米価の調節と安定を図るために公認し、世界初の先物取引が行われたとされる大阪の市場を何といいますか。

（2025年　山口公立入試　類似）

1. 堂島の米市場　**2.** 蔵屋敷　**3.** 株仲間　**4.** 二十四組問屋

問8 江戸幕府は政治的な統制を強めるために五街道を整備しましたが、これは結果として人々の移動や物資の流通を活発にしました。この交通網の発達を背景に、各地の風景を描いた「東海道五十三次」を完成させ、その色彩表現が後のヨーロッパの印象派画家たちにも大きな影響を与えた人物を次の中から選びなさい。 （2021年　神奈川県公立入試　類似）

1. 歌川広重　**2.** 葛飾北斎　**3.** 菱川師宣　**4.** 本居宣長

答え合わせ・解説

問1	**答え 1** **大坂町奉行所の元役人であった大塩平八郎が、ききんに苦しむ人々を救おうとせず江戸へ米を送り続ける奉行所の対応に憤り、弟子らとともに蜂起した。**	1830年代の天保のききんに対し、大坂町奉行所が適切な救済を行わず、逆に江戸へ米を送るなどの対応を優先したことが背景にあります。かつて奉行所の役人（与力）という立場にあった大塩平八郎が、幕府の政治を直接批判して反乱を起こしたことは、当時の社会に大きな衝撃を与えました。これは1841年から始まる天保の改革の遠因の一つともなっています。
問2	**答え 1** **伊能忠敬**	江戸時代後半、幕府の命を受けた伊能忠敬は、天文学や測量術の知識を駆使して全国を実測しました。作成された地図は、当時のヨーロッパの技術に匹敵するほどの極めて高い精度を誇っており、のちに明治政府が近代的な地図を作成する際にも基礎資料として活用されました。
問3	**答え 1** **菱川師宣**	菱川師宣は、それまで版本（印刷された本）の付録に過ぎなかった挿絵を、鑑賞を目的とした独立した絵画へと発展させた人物です。彼の登場によって浮世絵というジャンルが確立されました。選択肢にある喜多川歌麿や葛飾北斎は江戸時代後期の文化を代表する絵師であり、俵屋宗達は江戸時代初期の装飾的な「琳派」の祖とされる人物です。
問4	**答え 1** **田畑の面積や土地の質を調査し、予想される米の収穫量を「石高」として表すことで、年貢の徴収や武士の軍役の基準を明確にした。**	太閤検地では、全国で統一された「京枡」を用いて土地の面積や等級（上・中・下・下々）を調査し、その土地の生産力を米の量である「石高」で表しました。これにより、一つの土地に対して一人の耕作者（農民）を登録する「一地一作人の原則」が確立され、農民から確実に年貢を徴収する仕組みが整いました。また、武士に対しては、領地の石高に応じた軍役（兵を出す義務）を課すようになり、近世日本の社会構造を支える基盤となりました。
問5	**答え 1** **金や銀の海外流出を抑制するため、その代わりの決済手段（輸出の柱）として銅が長崎を通じて輸出された。**	江戸時代中期以降、幕府は国内の金銀の枯渇を防ぐため、長崎貿易における支払いを銀から銅へと切り替えていきました。別子銅山で採掘された銅は、この輸出経済を支える極めて重要な資源となり、長崎を通じてオランダや清（中国）へと運ばれました。
問6	**答え 1** **金の含有量を減らした新貨の発行により、幕府は総計で約500万両もの差額利益を得て財政に充てた。**	1695年の貨幣改鋳では、小判に含まれる金の割合を従来の約3分の2にまで低下させました。この「吹き替え」によって、幕府は多額の差額利益（出目）を得ることに成功し、当時の記録によればその総額は約500万両にものぼりました。この政策は、幕府の支出増大や金銀の産出量減少に対応するためのものでしたが、市場に質の悪い貨幣が大量に流出したことで、貨幣価値が下落し、結果として激しい物価高騰を引き起こしました。
問7	**答え 1** **堂島の米市場**	徳川吉宗は新田開発などによって幕府財政の再建を図りましたが、米の増産は市場における米の価値を下げる結果となりました。米を売って現金を得ていた武士の生活が困窮したため、幕府は大阪の堂島にある米市場を公認し、米価を高く維持するための介入を行いました。吉宗が「米将軍」と呼ばれるのは、このように米価の調節に心血を注いだことに由来します。
問8	**答え 1** **歌川広重**	江戸時代、幕府が東海道などの五街道を整備したことで、宿場町が発展し、庶民の間でも社寺参拝などを名目とした旅が流行しました。歌川広重は、街道の風景や旅人の様子を情緒豊かに描いた浮世絵「東海道五十三次」を発表し、当時の人々の旅への関心をさらに高めました。彼の作品に見られる鮮やかな青色は、後にヨーロッパへ渡り、ゴッホなどの画家に多大な影響を与えたことでも知られています。